

住民の取り組み事例

神戸市 山下委員

- 防災福祉コミュニティの取り組み
- 地域防災にかかるとの意見交換会

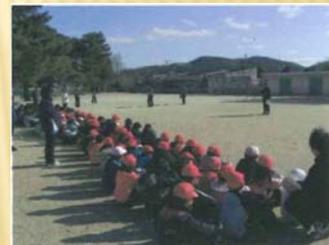
防災福祉コミュニティの取り組み

- ◆ 道場地域では武庫川本川をはじめ、5河川の流域に位置し、過去の災害を教訓とした防災・減災対策に重点を置いた活動を実施。

- ①防災訓練の実施
- ②防災学習会の実施
- ③広報・啓発活動



消防団との合同夏季防災訓練の実施



小学校との合同防災訓練
(1.17のつどい)の実施



親子防災キャンプの実施



高齢者対象の防災学習会の実施



防災リーダー研修会への参加

地域防災にかかるとの意見交換会

- ◆ 地域の防災・減災対策の取り組みをより深めていくために、平成23年度から行政関係者（区役所、消防署、県土木事務所等）を交えた「地域防災に係る意見・情報交換会議」を定例的に開催し、行政と緊密な連携を図っている。
- ◆ 平成16年台風23号の災害の教訓を基に設置（指定）された緊急の一時避難場所の拡大に取り組み、今年度新たに緊急避難場所が2箇所指定されるなど、効果的な会議となっている。



情報交換会議



平成16年台風23号の災害後、最初に指定された緊急待避所(生野地区:千苺浄水場)

三田市 藤村委員

- 三田地区地域防災訓練の実施
- 学校へのミニダム設置

三田地区地域防災訓練

- ◆ 豪雨災害時における防災体制を確立するとともに、自治会、学校、消防団、消防署が連携することで災害対応力の向上、防災意識の高揚を図ることを目的に、三田地区地域防災訓練を平成24年11月18日に開催。

平成24年度 三田地区地域防災訓練



日時 平成24年11月18日(日)
10時00分から12時00分
場所 三田市屋敷町2-20
『三田市立三田小学校』

参加機関 三田地区区長会
三田地区町人会
三田市立三田小学校
三田市教育委員会
三田市総務部防災安全課
さんだ防災リーダーの会
三田市消防団第1分団
三田市消防本部・署



土嚢作成訓練



防災倉庫・防災資機材の展示説明

- ◆ 避難ルートの確認までは本訓練ではできず。
本訓練の経験を活かした防災マップの作成が今後の課題

学校へのミニダム設置

- ◆ 三田市では、学校にミニダム（雨水タンク）の設置を進めている。
- ◆ 貯留した雨水は、学校農園への散水等に利用されている。



学校農園とミニダム



ミニダム

篠山市 中本委員

- 水害を想定した避難訓練
- 河川の維持管理協力
- H8災害を契機としたハザードマップ作成

水害を想定した避難訓練

- ◆ 自治体の協力の元、水害の避難訓練を実施し、多くの人に参加していただいた。
- ◆ 訓練時には雨天であったが、民政委員の協力のもと、要援護者に対する避難訓練も実施



避難所での避難者受入れ



災害時要援護者の避難誘導訓練



防災士による防災学習会

河川の維持管理協力

- ◆ 年一回の草刈りを実施し、洪水の安全な流下に備えている。
参加者の高齢化による後継者不足
草刈り枝葉の処分問題等が顕在化



草刈りの実施状況

H8災害を契機としたハザードマップ作成

- ◆ 平成8年の舞鶴自動車道土石流災害を契機に篠山市の協力の元、地域の人間で危険な箇所の情報などを出し合い、ハザードマップを作成。



平成8年舞鶴自動車道土石流災害の発生状況(当野地区)



当野地区防災マップ



平成8年舞鶴自動車道土石流災害時の浸水状況
(篠山産業高校付近: 上記写真範囲よりわずかに上流)

伊丹市 永田委員

- 自主防災会の活動
 - 池尻地区防災訓練
 - 桜台地区防災訓練
- 避難場所としての民間施設使用の協定締結

自主防災会の活動～池尻地区防災訓練～

- ◆ 避難訓練
 - 災害発生を想定して、自宅での行動確認
(持出品・避難所・避難経路)
 - 自宅周辺確認行動
(要援護者への安否確認・避難経路)
 - 避難所に集合後、「避難講座」を実施
 - 代表者が主避難所(池尻小学校)に向け出発・参集・報告
- ◆ MCA無線通信訓練
 - 池尻小学校 各避難所に一斉避難指示伝達

自主防災会の活動～桜台地区防災訓練～

◆ DIG訓練の実施



DIG訓練の実施状況

避難場所としての民間施設使用の協定締結

- ◆ 近隣のショッピングセンターを一時避難場所として指定するよう要望し、協定締結した



追加指定されたショッピングセンター

宝塚市 森田委員

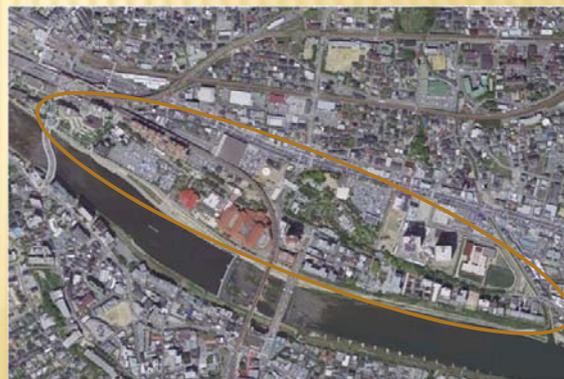
- 防災避難訓練の開催により見えた課題
- 災害時要援護者調査

防災避難訓練により見えた課題

- ◆ 平成24年10月14日に、初めての防災避難訓練を実施
 - 車いす利用者等の要援護者対応としてトイレの問題等が顕在化
 - 当該地区はマンションが多く、一時避難はマンション内、その後避難所へ向かうなど地域性を考慮した避難行動が必要
 - 避難経路に危険箇所あり
- ◆ 上記課題を今後のハザードマップ作りに活かす。



防災訓練の実施状況



宝塚市栄町・武庫川町付近の航空写真(マンションが多い)

災害時要援護者調査

- ◆ 災害時要援護者（88歳以上の高齢者）の居住地調査
 - ブロック長の戸別訪問による聞き取り調査
 - 地域コミュニティの向上による防災力のアップに繋げる。
- ◆ 自治会活動においても、個人情報最大のネック。
 - 災害時要援護者対策として、どこまでの枠組みを作っておくのか検討しておくことが今後の課題。

芦屋市 堀委員

- 地域コミュニティの形成
- 自治会の減災対策に向けた取り組み

地域コミュニティの形成～芦屋市堀委員～

- ◆ 各町、月に一度の町内全域清掃
(環境美化活動)

最初と最後にミーティングを実施

- ・ ・ ・ 参加者の安否確認

避難場所と避難ルートの確認

- ◆ 月に一度の談話室開設
(福祉活動)

高齢者の集い ・ ・ ・ 近況報告

The collage features the following elements:

- Cover:** 'あしや社協だより' Vol. 121, 2011 January. Published by 芦屋市社会福祉協議会 (Asiya Chokai Daigori).
- Article:** '打出小笹町の地域活動紹介' (Introduction to Community Activities in Utsunomiya-Kobesaka-cho). It describes the town's activities, including monthly cleaning and disaster drills, and mentions the 'あしや' (Asiya) community center.
- Diagram:** '打出小笹町 構成と地域活動' (Structure and Community Activities of Utsunomiya-Kobesaka-cho). It shows the town's population (715 households, 550 residents) and lists various community activities and organizations, such as 'あしや' (Asiya), 'あしやこども会' (Asiya Children's Association), and 'あしや高齢者会' (Asiya Seniors Association).

自治会の減災対策に向けた取り組み～芦屋市堀委員～

- ◆ 災害発生時に向けた取り組み
要援護者救出確認、自主防災・防犯組織の確立
- ◆ 防災行政無線と標高表示板
自治会員に説明・確認

	<h3>防災行政無線を増設します</h3> <p>平成22年度に市内32カ所で運用開始した防災行政無線について、このたび7カ所の屋外拡声子局(屋外スピーカー)の増設を進めています。 設置完了後は、緊急放送のほか、平常時は動作確認のため、毎日夕方5時にメロディチャイム(曲「夕焼け小焼け」)が流れます。 なお、防災行政無線のみでは、市民の皆さんへの情報伝達手段として限界がありますので、テレビ・ラジオや市ホームページ・あしや防災ネットなども活用して情報収集に努めてください。 ※増設箇所については市ホームページをご覧ください。</p>	<h3>標高標示板を整備しました</h3> <p>津波発生時の避難行動に寄与するため、その付近の標高を示した標高標示板を市内中南部地域の主要道路交差点30カ所に整備しました。 外国人のかたや市外からの来訪者にも、その地点における標高を分かりやすくお知らせしています。 日ごろから津波発生時の避難目標地点や安全個所を確認し、発生が心配されている南海地震等に備えましょう。</p>	
-----------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

広報あしや No.1096(平成24年11月15日号)より

尼崎市 松井委員

- 水路・ポンプ施設の重要性の啓発
- 防災マップの作成

水路・ポンプ施設の重要性

- ◆ 新規居住者が多く、治水に対する認識が低い住民の率が高い。
- ◆ 浮きゴミによる目詰まりが、ポンプ施設の機能低下を招くなど、ポンプ施設の重要性とゴミの発生源対策について、住民意識の啓発を実施。



常松ポンプ場



水路①



水路②



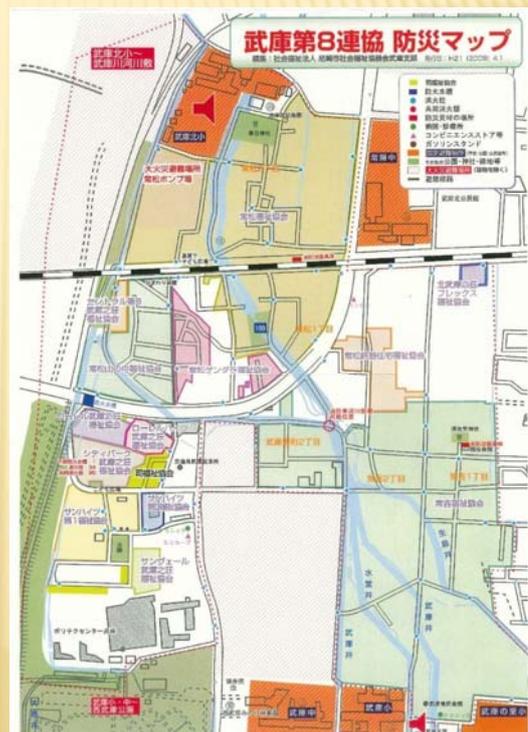
放水ゲート

防災マップの作成

- ◆ 防災研修を企画・参加し、防災の担い手を育成。
- ◆ 防災マップを住民自らの手で作成。水害リスクと避難先等の情報を共有。



防災研修の実施状況



防災マップの作成

西宮市 室屋委員

- 災害に備えて
- 防災マップの作成
- 地域の形成と「安全・安心」まちづくり

災害に備えて

- ◆ 防災訓練では逃げるだけでなく、水中歩行の困難さや土嚢作成等の体験も実施。
- ◆ 地域の体育祭には防災関連競技を取り入れたり、中学校の「トライやる・ウィーク」では地盤高を実感できるように測定したり、津波想定模型を作成したりしている。



水中歩行体験



トライやる・ウィークの実施状況

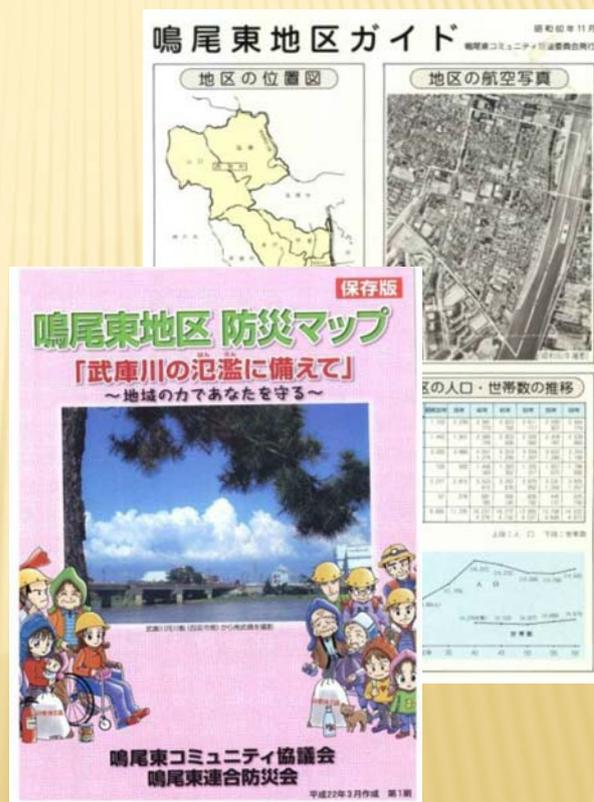


津波想定模型

東鳴尾地区防災マップ

- ◆ 東鳴尾地区の特徴を盛り込んだ防災マップを作成。

- ①西宮一低い地盤高の反映
マップに地盤高を表示。
- ②過去、内水氾濫が度々発生
ノンロックタイプの蓋写真
を掲載。マンホール蓋の知
識の啓発。
- ③避難経路及び避難施設の反映
避難経路と避難施設及び、
どの避難施設に概ねどのエ
リアの住民が避難するかを
表示。



地域の形成と「安全・安心」まちづくり

- ◆ 東南海・南海地震の到来が予測され、その被害は阪神・淡路大震災での阪神間エリア域をはるかに超える広域と予測される。
- ◆ これを乗り越えるためには「公助」頼みではなく、「自助」・「共助」が最も重要。
- ◆ 平時も含め、今一度「向こう三軒両隣」の精神に立ち返り、良きご近所付き合いをベースに、心が通う「安全・安心」なコミュニティづくりが望まれる。